

《教養科目》

| | | | | | |
|---------------------------|---|-------|------|----------|-----------|
| 科目名 | キャリア教育 I | | | | |
| 担当者氏名 | 大野 博之、中村 敏男、キャリア委員長、専任教員 | | | | |
| 授業方法 | 講義・演習 | 単位・必選 | 1・必修 | 開講年次・開講期 | 1年・通年(前期) |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ◎ 1-1 教養 ○ 2-2 知識・技能 ○ 3-3 汎用的技能 ○ 4-4 態度・志向性 ○ 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | |

《授業の概要》

2年間の短期大学での学びを通して、建学の精神・教育方針に対する理解を深め、ディプロマポリシー(卒業認定・学位授与の方針)に挙げた能力を身につけ、キャリア形成能力を高める。そのために、チュートリアル・グループワークなど様々な授業形態で授業を展開する。

《テキスト》

キャリアノートブック

《参考図書》

大野 誠「敦照のこころ」現代書林1995
他、担当者の指示による

《授業の到達目標》

- ①建学の精神・教育方針の重要性を説明できる。
- ②社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につける。
- ③現代社会に必要な教養とマナーを身につける。
- ④大学での学びに必要なスタディスキルを身につける。

《授業時間外学習》

授業内で学んだことを通じて、他の全ての科目において学ぶ目的を明確にし、充実した大学生活に結び付けられるように意識する。毎回の授業について、予習・復習合わせて概ね1時間の時間外学習が必要である。

《成績評価の方法》

各授業での課題に対する評価60%、授業に対する参加態度やキャリア形成への取り組みに対する評価40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

課題レポートは内容を確認し、次回の授業の中でコメントを付してフィードバックする。

《授業計画》

| 回 | テーマ | 学習内容など |
|----|-------------------------|---|
| 1 | 「建学の精神」と「教育方針」(学長) | 「建学の精神」と「教育方針」について理解し、学生生活で目指すことをについて考える。「敦照のこころ」の関連箇所を読んでおく |
| 2 | 大学における学び①(担任) ノートテイキング他 | ノートテイキング・ライティングの基本スキルを身につける。これまでの経験から自分に合ったノートテイキング・文章作成方法をまとめておく |
| 3 | 大学における学び②(担任) リーディング | リーディングの基本スキルを身につける。これまでの経験から自分に合った文章読解の方法をまとめておく |
| 4 | 子どもの理解(担任) | 保育現場の特徴について知る。予想される特徴についてまとめておく。 |
| 5 | 就活講座①自己理解(担任) | これまでの自分史を振り返り、自分の目標や性格への理解を深める。キャリアノートブック「キャリアデザインシート」「自分史ワークシート」を確認しておく |
| 6 | キャリア委員長による講話 | キャリアデザイン・アンカーとは。進路活動における自分の価値観(譲れない事項)等を明確化する。キャリアノートブックの目次、p6を読んでおく |
| 7 | 卒業生による講話① | 卒業生の就職活動体験談を通して、保育者1年生の仕事内容や、社会人として必要な資質・能力や、学生時代に身につけておくべきことを学ぶ。質問リストを作成しておく |
| 8 | / | / |
| 9 | / | / |
| 10 | / | / |
| 11 | / | / |
| 12 | / | / |
| 13 | / | / |
| 14 | / | / |
| 15 | / | / |

《教養科目》

| | | | | | |
|---------------------------|---|-------|------|----------|-----------|
| 科目名 | キャリア教育 I | | | | |
| 担当者氏名 | 大野 博之、中村 敏男、キャリア委員長、専任教員 | | | | |
| 授業方法 | 講義・演習 | 単位・必選 | 1・必修 | 開講年次・開講期 | 1年・通年(後期) |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ◎ 1-1 教養 ○ 2-2 知識・技能 ○ 3-3 汎用的技能 ○ 4-4 態度・志向性 ○ 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | |

《授業の概要》

2年間の短期大学での学びを通して、建学の精神・教育方針に対する理解を深め、ディプロマポリシー(卒業認定・学位授与の方針)に挙げた能力を身につけ、キャリア形成能力を高める。そのために、チュートリアル・グループワークなど様々な授業形態で授業を展開する。

《テキスト》

キャリアノートブック

《参考図書》

大野 誠「教照のこころ」現代書林1995
他、担当者の指示による

《授業の到達目標》

- ①建学の精神・教育方針の重要性を説明できる。
- ②社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につける。
- ③現代社会に必要な教養とマナーを身につける。
- ④大学での学びに必要なスタディスキルを身につける。

《授業時間外学習》

授業内で学んだことを通じて、他の全ての科目において学ぶ目的を明確にし、充実した大学生活に結び付けられるように意識する。毎回の授業について、予習・復習合わせて概ね1時間の時間外学習が必要である。

《成績評価の方法》

各授業での課題に対する評価60%、授業に対する参加態度やキャリア形成への取り組みに対する評価40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

課題レポートは内容を確認し、次回の授業の中でコメントを付してフィードバックする。

《授業計画》

| 回 | テーマ | 学習内容など |
|----|-----------------------|--|
| 1 | 就活講座②職業理解1 (キャリア委員長) | 園・施設が求める能力とは。就職先アンケートから見る本学の評価と園・施設が求める専門職業人の能力について。キャリアノートブックp13を読んでおく。 |
| 2 | 就活講座③職業理解2 (担任) | 園・施設の属性(公立・私立の違い、法人・株式会社の違いなど)を理解し、自分の目指す就職に必要な準備を理解する。キャリアノートブックp14~18を読んでおく。 |
| 3 | 就活講座④求人票の見方 (担任) | 求人票の各項目(給与、賞与、休日、保険、福利厚生など)の見方について理解する。キャリアノートブックp23~24を読んでおく。 |
| 4 | 学院創立記念に係る講話 (学長) | 学院創立記念に係る講話を通して、社会人としての教養を高め自己を見つめる。学修内容を振り返りまとめる。 |
| 5 | 就活講座⑤リクルート | 職業人として豊かな人生を歩む中で経験やスキルを積み、自身を成長させるには何が必要かを学び、実践する態度を養う。自分を成長させる方法を考えておく。 |
| 6 | 就活講座⑥労働法セミナー (ハローワーク) | 働くうえで知っておきたいこと(出産休暇・育児休暇・時短勤務・有給休暇・雇用保険・健康保険など)。福利厚生について求人票から調べておく。 |
| 7 | 卒業生による講話② | 卒業生の体験談を通して、社会人・保育者に必要な資質・能力や、今後の実習や学生生活で何を身につけるべきかを学ぶ。質問リストを作成しておく。 |
| 8 | 就職活動報告会 | 上級生から就職活動や面接等の実際について話を聴き、ディスカッション等を通して就職活動の意識を高める。学修内容をまとめる。 |
| 9 | / | / |
| 10 | / | / |
| 11 | / | / |
| 12 | / | / |
| 13 | / | / |
| 14 | / | / |
| 15 | / | / |

《教養科目》

| | | | | | |
|---------------------------|--------|-------------------------|------|----------|-------|
| 科目名 | 英語 I A | | | | |
| 担当者氏名 | 塚原 昌子 | | | | |
| 授業方法 | 演習 | 単位・必選 | 1・必修 | 開講年次・開講期 | 1年・前期 |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | | ◎ 1-1 教養 ○ 2-2 知識・技能 | | | |

《授業の概要》

日常会話と専門的英語を学修します。場面を設定しそこでの対話を考えます。エッセイに関しては作成後個別に教員が対面で指導を行います。エッセイについてプレゼンテーションを行います。

《テキスト》

Make It Simple
 Kazuko Morita / Junko Takahashi / Hiroko Kitamoto
 2021 SANSHUSYA

《参考図書》

その都度指示します。

《授業の到達目標》

- (1) 英語を学ぶことと使うことを楽しむことができる。
- (2) 英検の準二級合格に備えることができる。
- (3) 日常単語とフレーズを使う事ができる。
- (4) 基本文型（前置詞や複数形や関係代名詞を含む）を使う事ができる。
- (5) 英語が使われる場所や地域の文化的側面を語る事ができる。

《授業時間外学習》

- (1) 学生は毎日最低15分英語を勉強することが望ましい。
- (2) 学生はテキストの単語とフレーズを暗記する。
- (3) 日記を書くこともいい方法である。
- (4) 英検を受験して熟達度を測る。
- (5) 一時間程度の宿題が出される。

《成績評価の方法》

宿題 20%
 授業中の課題 20%
 小テスト20%
 定期試験（筆記）40%
 総合評価し、60点以上を合格とする

《課題に対するフィードバック等》

課題返却時に口頭でフィードバックし、提出物にはコメントを記載します。

《授業計画》

| 回 | テーマ | 学習内容など |
|----|---------------------------|--|
| 1 | 指導方針、Lesson 1 家族(1)-自己紹介 | (授業内容)授業の受け方、英語の学び方、Lesson 1家族(1)be動詞① (時間外学習) Lesson 1 の単語を調べ、p. 7～8を解答。 |
| 2 | Lesson 1 家族(2)-練習と会話 | (授業内容) be動詞① (時間外学習) 前回の復習をノートにまとめ、Exercisesを解いてくる |
| 3 | Lesson 2 キャンパス案内(1)-場所の表現 | (授業内容) be動詞② (時間外学習) Lesson 2 の単語を調べ、p. 13～14を解答。 |
| 4 | Lesson 2 キャンパス案内(2)-練習と会話 | (授業内容) be動詞② (時間外学習) 前回の復習をノートにまとめ、Exercisesを解いてくる |
| 5 | Lesson 3 就職・職場(1)-職場での表現 | (授業内容) 一般動詞① (時間外学習) Lesson 3 の単語を調べ、p. 18～20を解答。 |
| 6 | Lesson 3 就職・職場(2)-練習と会話 | (授業内容) 一般動詞① (時間外学習) 前回の復習をノートにまとめ、Exercisesを解いてくる |
| 7 | Lesson 1～3のまとめ-小テスト | (授業内容) Lesson 1～3の復習のち小テスト (時間外学習) Lesson 1～3の要点をノートにまとめ、テストに備える |
| 8 | Lesson 4 日課(1)-代名詞の使い方 | (授業内容) 一般動詞②・代名詞 (時間外学習) Lesson 4 の単語を調べ、Let's tryの訳を書き、p. 25～28を解く |
| 9 | Lesson 4 日課(2)-練習と会話 | (授業内容) 一般動詞②・代名詞 (時間外学習) 前回の復習をノートにまとめ、Exercisesを解いてくる |
| 10 | Lesson 5 交通(1)-交通の表現 | (授業内容) 命令文 (時間外学習) Lesson 5 の単語を調べ、Let's tryの訳を書き、p. 31～34を解く |
| 11 | Lesson 5 交通(2)-練習と会話 | (授業内容) 命令文 (時間外学習) 前回の復習をノートにまとめ、Exercisesを解いてくる |
| 12 | Lesson 6 アルバイト(1)-名詞の表現 | (授業内容) 名詞を詳しく (時間外学習) Lesson 6 の単語を調べ、Let's tryの訳を書き、p. 37～40を解く |
| 13 | Lesson 6 アルバイト(2)-練習と会話 | (授業内容) 名詞を詳しく (時間外学習) 前回の復習をノートにまとめ、Exercisesを解いてくる |
| 14 | Lesson 4～6のまとめ-小テスト | (授業内容) Lesson 4～6の復習のち小テスト (時間外学習) Lesson 4～6の要点をノートにまとめ、テストに備える |
| 15 | Lesson 1～6のまとめ-復習、練習問題 | (授業内容) Lesson 1～6のポイントを復習。定期試験対策 (時間外学習) Lesson 1～6の要点をノートにまとめ、質疑応答に備える |

《教養科目》

| | | | | | |
|---------------------------|--------|--|------|----------|-------|
| 科目名 | 情報処理 I | | | | |
| 担当者氏名 | 石部 忠之 | | | | |
| 授業方法 | 実習 | 単位・必選 | 1・必修 | 開講年次・開講期 | 1年・前期 |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | | ○ 1-1 教養 ◎ 2-2 知識・技能 ○ 3-3 汎用的技能 | | | |

《授業の概要》

ICT(Information & Communication Technology)社会の到来を受け、情報処理技術が職場や日常生活の中に広く普及しておりその修得が期待されている。そこでこのような社会のニーズに応えるため、Word, Excel, PowerPointといったアプリケーションソフトについて学び、また情報倫理やインターネットの利活用についてグループワークを通して実際の問題に取り組むことで実践的なスキルを身につける

《授業の到達目標》

情報倫理について説明できる
 キーボードのスムーズな操作ができる
 Wordの基礎的な操作ができる
 Excelの基礎的な操作ができる
 PowerPointの基礎的な操作ができる
 OneDriveを使うことができる
 インターネットを使って情報検索ができる

《成績評価の方法》

定期試験70%、小テスト20%、課題提出10%、これを総合的に評価し、60点以上を合格とする

《テキスト》

イチからしっかり学ぶ! Office基礎と情報モラル～Microsoft365・Officeバージョンフリー【NESS付】～ noa出版
 大石博雄 情報倫理ハンドブック noa出版 Webテス

《参考図書》

2026年最新改訂版! ワード/エクセル/パワーポイント 基本の使い方がぜんぶわかる本(すぐに使えて、超役立つ! Copilotも解説!) ムック 浦辺制作所製作所(著) 2025/10/8

《授業時間外学習》

テキストにある練習問題を中心に実習形式で学修するので授業計画に記載してある内容を予習しておくこと。時間内に終わらない問題については、次の授業までに完成させておくこと。タイピング練習を5分～10分程度行うこと
 本授業は15時間の授業外学習が必要である

《課題に対するフィードバック等》

提出された課題については内容を確認し、次の授業でコメントを付してフィードバックする

《授業計画》

| 回 | テーマ | 学習内容など |
|----|----------------------|--|
| 1 | 本学コンピュータシステムの概要 | 本学コンピュータシステムの利用方法、ネットワークを利用するための留意点、個人用フォルダ、パスワードの扱い、Web教材について 準備学習: テキストpp2-34を読んでおくこと。 |
| 2 | 情報倫理、インターネット グループワーク | 情報セキュリティ、情報リテラシー、著作権、個人情報の取り扱い、ネットコミュニケーション、ウイルス 準備学習: 情報倫理ハンドブックの1・2を読んでおくこと。 |
| 3 | 情報倫理、タイピング グループワーク | コンピュータを利用するために必要不可欠なキーボード操作(タイピング) 準備学習: 情報倫理ハンドブック3・4を読んでおくこと。 |
| 4 | ワードの基礎(起動と設定) | 起動、スタート画面構成、新規作成、文書画面構成、リボン、IME設定、入力と変換、範囲指定、一括変換と文節変換 準備学習: テキストpp35-59を読んでおくこと。 |
| 5 | 文書作成(チラシ作成) | 書式設定、インデント、タブ、表の作成、ワードアート、画像の挿入、図形の作成 準備学習: テキストpp60-80を読んでおくこと。 |
| 6 | 文書作成(レポート作成) 小テスト① | 表紙の作成、編集、図の挿入、グラフの挿入、引用、図表番号、脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正 準備学習: テキストpp81-98を読んでおくこと。 |
| 7 | エクセルの基礎、表の作成 | 起動、スタート画面、ブックの新規作成、画面構成、範囲指定、終了処理、表の作成 準備学習: テキストpp100-122を読んでおくこと。 |
| 8 | 表の編集 | 印刷イメージの確認、改ページ、ページ設定印刷タイトルの設定、ヘッダー、フッター、印刷 準備学習: テキストpp123-129を読んでおくこと。 |
| 9 | 計算の設定 小テスト② | 計算式、数式、演算記号、参照 準備学習: pp130-141までを読んでおくこと。 |
| 10 | 関数計算 | 関数の利用、SUM関数、AVERAGE関数、ROUND関数、ROUNDUP、ROUNDDOWN関数、INT関数、IF関数 準備学習: pp141-152までを読んでおくこと。 |
| 11 | グラフ作成 小テスト③ | グラフの種類、グラフ作成、移動とサイズ変更、グラフの要素、グラフの編集、複合グラフ 準備学習: pp153-176まで読んでおくこと。 |
| 12 | パワーポイントの基礎 小テスト④ | プレゼンテーションの基本、プレゼンテーションの要点、形式、ツール、プレゼンテーションの流れ、適切なゴール設定 準備学習: pp178-190までを読んでおくこと。 |
| 13 | パワーポイントの起動と作成 | 起動、スタート画面、画面構成、スライド作成、効果の設定 準備学習: pp191-219までを読んでおくこと。 |
| 14 | パワーポイントの編集 | ワードアート、SmartArt、オンライン画像、Excelの方とグラフの挿入、図形の作成 準備学習: pp222-234までを読んでおくこと。 |
| 15 | セキュリティと情報モラル | コンピュータウイルス、スパイウェア、著作権、個人情報保護、ルールとマナー 準備学習: pp250-287までを読んでおくこと。 |

《教養科目》

| | | | | | |
|---------------------------|--------|---|------|----------|-------|
| 科目名 | 日本語と表現 | | | | |
| 担当者氏名 | 吉野 寿一 | | | | |
| 授業方法 | 講義 | 単位・必選 | 2・選択 | 開講年次・開講期 | 1年・前期 |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | | ○ 2-2 知識・技能 ○ 3-3 汎用的技能 ◎ 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |

《授業の概要》

日本語に関する基本的な内容を理解し、それを生かして、音声言語・文字言語の両面にわたっての技能の向上を図る。

グループによる協議・発表等、アクティブ・ラーニングの手法を用い、主体的・対話的な学習を通して、必要な技能を身に付ける。具体的には、①新聞記事を使った言語活動②随筆をテーマにした言語活動③レポート活用した言語活動④敬語に焦点をあてた言語活動等を行う。

《授業の到達目標》

目的・相手・場等に応じて、適切な日本語を用いて表現することができる。

音声・文字の両面にわたって、その特性を踏まえ、適切に日本語を表現することのよさを理解し、実践できる。

《成績評価の方法》

平常点（レポート・プリント等）60％と定期試験40％を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

※授業における平常点は、授業中の課題の作品への評価や授業時間外の学修への取り組みの内容を重視する。

《テキスト》

各時間にプリントを配布する。

《参考図書》

三省堂編集部著『新しい日本語表記ハンドブック』第六版 三省堂
池田悠子著『やさしい日本語指導 音韻・音声』凡人社

《授業時間外学習》

授業で取り上げた内容について、日常の言語生活を省察し、課題及び解決策についてまとめる。また、学んだ内容を積極的に活用することで、より定着を図る。優れた日本語表現の採集を日常的に行い、日本語への自覚を高める。

毎回の授業について、予習及び復習を中心に4時間の授業時間外学習が必要である。

《課題に対するフィードバック等》

提出されたプリント等は、内容を確認し、講評などを付して翌週以降の授業日にフィードバックする。

《授業計画》

| 回 | テーマ | 学習内容など |
|----|-----------------------|---|
| 1 | コミュニケーションツールとしての挨拶と対話 | コミュニケーションツールとしての挨拶・対話のあり方について理解し、演習する。時間外学習：学んだ内容について、実践したことをまとめる。 |
| 2 | 新聞の特質と紙面構成 | 新聞の特質と紙面構成について学び、複数記事の比較を通して学んだことをまとめる。時間外学習：一定期間新聞を読み続け、その特質をまとめる。 |
| 3 | 新聞記事から要約文・感想文へ | 新聞記事を読んで要約し、感想文にまとめる方法を理解する。時間外学習：記事内容を的確にまとめた要約文になっているかを中心に推敲する。 |
| 4 | 要約文・感想文へのまとめ方 | それぞれが作成した要約文や感想文を読み合い相互評価する。（グループ発表）時間外学習：要約文や感想文へのまとめ方について学んだことを整理する。 |
| 5 | 随筆から学ぶレトリックを知る | 文章のジャンルとしての随筆の特徴を理解する。レトリック（修辞法）を知る。時間外学習：身近な随筆の例を収集し、随筆の特徴を理解する。 |
| 6 | 随筆を書くレトリックを使う | 身近な生活から題材を見つけ、レトリックを使い与えられた字数内で随筆を書く。時間外学習：書き手の思いや考えが読み手に伝わるかを中心に随筆を推敲する。 |
| 7 | 随筆を読み合うより良い表現をめざす | 書き上げた随筆をグループで読み合い、相互評価する。（グループ発表・討議）時間外学習：他の随筆から学んだことを整理し、まとめる。 |
| 8 | レポートや研究論文の特徴 | レポートや研究論文の形式・内容について理解する。時間外学習：レポートや研究論文の例を収集し、形式・内容についてまとめる。 |
| 9 | レポート作成に向けた資料の収集 | テーマに即して、資料等を収集する。時間外学習：関係資料の収集、データの蓄積及びそれらをもとにした考察をまとめる。 |
| 10 | レポートの作成説得力のある文章へ | 収集した資料・データ等をもとに、説得力のあるレポートを作成する。時間外学習：レポートとしての形式・内容を整えてまとめる。レポートを仕上げる。 |
| 11 | 作成したレポートの相互評価・良い表現を学ぶ | 作成したレポートをグループで読み合い、相互評価を行う。（グループ発表・討議）時間外学習：他のレポートから学んだこと、今後に生かしたいこと等をまとめる。 |
| 12 | 接遇表現と日本語の敬語 | 接遇表現としての日本語の敬語のあり方について理解する。時間外学習：敬語の種類について整理し、その正しい使い方について理解する。 |
| 13 | 敬語の使い方：手紙文やメール等を想定して | 敬語の使い方の実際として、敬語を用いた手紙文やメール文を仕上げる。時間外学習：手紙文やメール文の形式及び敬語を用いた書き方の要点をまとめる。 |
| 14 | 敬語の使い方：電話対応や面接時を想定して | 敬語の使い方の実際として、電話や面接時を想定して演習する。（グループ演習）時間外学習：電話や面接時の敬語の使い方についての要点をまとめる。 |
| 15 | 今後生きる、日本語と表現 | 日常の言語生活で誤りやすい日本語表現例をもとに、適切な使い方を学ぶ。時間外学習：今後の言語生活における、日本語の使用にあたっての考えをまとめる。 |

《教養科目》

| | | | | | |
|---------------------------|-------|-------------------------|------|----------|-------|
| 科目名 | 生活の科学 | | | | |
| 担当者氏名 | 落合 啓志 | | | | |
| 授業方法 | 講義 | 単位・必選 | 1・選択 | 開講年次・開講期 | 1年・前期 |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | | ◎ 1-1 教養 ○ 2-2 知識・技能 | | | |

《授業の概要》

生活の中にある平凡な事象から科学を見出し、グループ討議・発表、観察・実験などを通して生活に役立つ知識や科学的な見方・考え方を修得する。なお、グループ討議は3～4人程度で毎時間実施し、グループのメンバーは毎回変わる。実験のある授業は20人程度で行い、履修者が多い場合は2回に分けて行う。授業の終末で提示する課題はポートフォリオにて提出する。

《授業の到達目標》

生活の中にある事象について、多面的・多角的・総合的にとらえ、根拠を示して説明したり、科学的な思考ができる。

《成績評価の方法》

筆記試験（20%）、毎回の授業中に記入する「ワークシート」及び授業後に提出するポートフォリオ（80%）を総合的に評価し、総合評価6.0点以上を合格とする。

《テキスト》

なし

《参考図書》

赤木かん子著 「タンポポもっと知りたい」 新樹社 2015
 岩間史朗著 「ぜんぶわかる!タンポポしぜんのひみつ写真館」ポプラ社 2014
 佐藤 清隆著 ひと粒のチョコレートに 福音館書店 2023
 田村 孝介(写真) どうやってできるの?チョコレート ひさかたチャイルド 2023

《授業時間外学習》

復習として、授業で配布した資料を活用してポートフォリオを作成する他、授業に関連する学習を自発的に行うこと。本授業は29時間の授業時間外学習が必要です。したがって、各回において、予習復習合わせて概ね3.7時間の自己学習が必要である。（授業計画には☆で示す）

《課題に対するフィードバック等》

提出されたポートフォリオは内容を確認し、次の授業の前日までにコメントを付してフィードバックします。

《授業計画》

| 回 | テーマ | 学習内容など |
|----|------------------------|--|
| 1 | 科学的ってどういうこと? | 情報をそのままのみにすると騙されることもあります。騙されないために科学的に考えることの意義を学びます。☆授業終末で示した課題をポートフォリオで提出する。 |
| 2 | タマゴから見えてくる科学 実験編 | タマゴを使って、いろいろな実験をしてみましょう。 たかがタマゴ、されどタマゴ。そこから科学が見えてきます。☆授業終末で示した課題をポートフォリオで提出する。 |
| 3 | タマゴから見えてくる科学 生命編 | ニワトリのタマゴの不思議について、いろいろな角度から見ていきます。そこから科学が見えてきます。☆授業終末で示した課題をポートフォリオで提出する。 |
| 4 | 紙切れ1枚から見えてくる科学 | 紙切れを使って、いろいろな実験をしてみましょう。 たかが紙切れ、されど紙切れ。そこから科学が見えてきます。☆授業終末で示した課題をポートフォリオで提出する。 |
| 5 | タンポポから見えてくる科学 | 日頃見かけるタンポポには驚かされることいっぱいです。タンポポを科学してみます。☆授業終末で示した課題をポートフォリオで提出する。 |
| 6 | チョコレートから見えてくる科学 | スーパーやコンビニ売っているチョコレートにも科学が存在します。また環境問題やSDGs問題も潜んでいます。☆授業終末で示した課題をポートフォリオで提出する。 |
| 7 | 人間のからだから見えてくる科学 | 人間のからだって意外と不思議。どうしてこんなことになっているんだろう? そこから科学が見えてきます。☆授業終末で示した課題をポートフォリオで提出する。 |
| 8 | 災害から見えてくる科学 & 授業終了後、試験 | 地震や台風、水害など避けて通れない災害を科学の目で見てみます。授業終了後、試験を実施します。☆授業終末で示した課題をポートフォリオで提出する。 |
| 9 | / | / |
| 10 | / | / |
| 11 | / | / |
| 12 | / | / |
| 13 | / | / |
| 14 | / | / |
| 15 | / | / |

《教養科目》

| | | | | | |
|---------------------------|------------------------|-------------------------|------|----------|-------|
| 科目名 | 子どもと発達 | | | | |
| 担当者氏名 | 中村 敏男、古木 竜太、東 敦子、小笠原 忍 | | | | |
| 授業方法 | 講義 | 単位・必選 | 1・選択 | 開講年次・開講期 | 1年・前期 |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | | ◎ 1-1 教養 ○ 2-2 知識・技能 | | | |

《授業の概要》

本科目は、心やからだ、言葉、表現などの面から幼い子どもの発達の特性についてグループワークやその発表を通して学ぶ。保育者を目指す学生の入門的な内容の科目ではあるが、保育や子どもに興味があり、保育所等に就職を希望する学生が保育学・教育学・心理学に関する教養を高めるために学ぶことのできる内容でもある。

《テキスト》

必要に応じてプリントを使用する。

《参考図書》

必要に応じて授業の中で紹介する。

《授業の到達目標》

子どもの発達について様々な側面から理解し、説明することができる。また、子どもの発達に関する基礎的な知識を身につけ、今日の人間の発達に関わる課題について考察を深め、討議することができる。

《授業時間外学習》

必要に応じて課題を出すので、自己学習を行うこと。本授業では、30時間程度の時間外学習を必要とする。

《成績評価の方法》

レポート（60%）、観察記録（40%）により評価し、総合評価60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

レポートは授業の中で適宜解説を加え、フィードバックを行う。

《授業計画》

| 回 | テーマ | 学習内容など |
|----|-----------------------|--|
| 1 | 発達と教育（小笠原） | 発達の諸様相・教育の必要性についての理解〔時間外学習〕「育みたい資質・能力」「育ってほしい10の姿」について、予習・復習する。 |
| 2 | からだの発達（古木） | 人間の身体的側面の発達の理解〔時間外学習〕「立腰教育」「はだし保育」など「〇〇教育」「〇〇保育」について予習・復習する。 |
| 3 | 心の発達（小笠原） | 人間の心理的側面の発達の理解〔時間外学習〕発達段階と発達課題について予習・復習する。 |
| 4 | 言葉の発達（中村） | 人間の言語的側面の発達の理解〔時間外学習〕「クーイング」「一語文」「二語文」について予習・復習する。 |
| 5 | 表現の発達（古木） | 人間の表現の発達の理解〔時間外学習〕教育要領、保育指針の「表現」の内容を予習し、「ごっこ遊び」の復習をする。 |
| 6 | 発達に遅れがある子どもへの指導・支援（東） | 発達に遅れのある子どもに見られる遅れの背景・要因、基本的な指導・支援の理解〔時間外学習〕障害の種別について調べ、その特性や把握の仕方について予習・復習する。 |
| 7 | 発達における今日的課題（東） | 子どもの発達を保障する職業に就くうえでおさえるべき課題の理解〔時間外学習〕特別支援教育の目的、保育指導のあり方について予習・復習する。 |
| 8 | 発達と生涯学習（中村） | 生涯学習の重要性の理解〔時間外学習〕これまでの学修内容から設定したテーマに基づき課題レポートを完成させる。 |
| 9 | ・ | ・ |
| 10 | ・ | ・ |
| 11 | ・ | ・ |
| 12 | ・ | ・ |
| 13 | ・ | ・ |
| 14 | ・ | ・ |
| 15 | ・ | ・ |

《教養科目》

| | | | | | |
|---------------------------|---------|--------------------------|------|----------|-------|
| 科目名 | ボランティア論 | | | | |
| 担当者氏名 | 安食 邦明 | | | | |
| 授業方法 | 講義 | 単位・必選 | 1・選択 | 開講年次・開講期 | 1年・前期 |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | | ◎ 1-1 教養 ○ 4-4 態度・志向性 | | | |

《授業の概要》

地震、津波、台風等の大規模災害、感染症の蔓延などが頻発している。公的援助が届かない部分へのボランティア活動は欠かせないものになっている。世界では、貧困や格差、紛争の続く地域などへのボランティア活動の重要度を増している。この授業では、様々な視点からボランティア活動に必要な知識や、実際にボランティアに取り組む際の準備について学び、ボランティアをやってみようという積極的な態度を培う。

《授業の到達目標》

海外におけるボランティア活動、国内におけるボランティア活動について理解し、説明できる。

ボランティア活動を行う際の課題を理解したうえで、多面的な視点や能動的な姿勢を身に付けることができる。

《成績評価の方法》

課題レポート70%、授業（グループワーク、発表学修等）30%により評価し、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

プリントを配布する。

《参考図書》

猪瀬浩平(著)『ボランティアってなんだっけ?』2020年2月、岩波ブックレット
 さだまさし(著)『ボランティアをやりたい!』2019年12月、岩波ジュニア新書

《授業時間外学習》

授業前：次の授業回で扱うテーマについて、文献・インターネット等を用いて自己学習する。
 授業後：授業で配布された資料等をよく読み込み理解を深め、課題レポートを完成させる。
 (本授業では29時間の時間外学習が必要です。)

《課題に対するフィードバック等》

課題レポートは内容を確認し、次の授業の中でコメントを付けてフィードバックする。

《授業計画》

| 回 | テーマ | 学習内容など |
|----|---------------|---|
| 1 | ボランティアのすすめ | ボランティアの概念・特徴等について。ボランティア活動の課題[グループ協議]。 [時間外学習] 自分の体験したボランティアやそのイメージを考えておく。 |
| 2 | 災害ボランティア | 災害ボランティアと心構え、準備について。災害ボランティアの課題[グループ協議]。 [時間外学習] どのような災害ボランティアがあるか調べておく。 |
| 3 | 社会福祉とボランティア | 社会福祉、高齢者問題等とボランティア活動について。その課題[グループ協議]。 [時間外学習] どのような福祉分野のボランティアがあるか調べておく。 |
| 4 | 環境問題とボランティア | 環境問題やSDGsの視点からの活動。私たちにできる環境保全[グループ協議]。 [時間外学習] 私たちにできる環境保護活動でのボランティアについて調べておく。 |
| 5 | 国際社会とボランティア | 様々な国際組織、活躍する日本人について。海外ボランティアの課題[グループ協議]。 [時間外学習] 発展途上国でのボランティアはどんなものか調べておく。 |
| 6 | 教育・子育てとボランティア | 教育・子育て分野の抱える課題とボランティアについて[グループ協議]。 [時間外学習] 教育・子育て分野のボランティアのついて調べておく。 |
| 7 | 企業のボランティア | 企業の社会貢献活動・社会貢献家について。企業ボランティアの課題[グループ協議]。 [時間外学習] どんな企業の社会貢献活動があるかを調べておく。 |
| 8 | ボランティアを始めよう | ボランティア活動の準備と注意点について考える。地域のボランティア[グループ協議、発表学修]。 [時間外学習] 身近にある地域のボランティア活動を調べておく。 |
| 9 | / | / |
| 10 | / | / |
| 11 | / | / |
| 12 | / | / |
| 13 | / | / |
| 14 | / | / |
| 15 | / | / |

《教養科目》

| | | | | | |
|---------------------------|--|-------|------|----------|-------|
| 科目名 | 日本文化と国際理解 | | | | |
| 担当者氏名 | 大野 博之、古木 竜太、専任教員 | | | | |
| 授業方法 | 講義・演習 | 単位・必修 | 1・必修 | 開講年次・開講期 | 1年・後期 |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ◎ 1-1 教養 ○ 3-3 汎用的技能 ○ 4-4 態度・志向性 ○ 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | |

《授業の概要》

国際社会の一員として、自己の役割を果たすために、我が国及び諸外国の伝統や文化等について主体的・対話的に学びながら深く考え、発表していく。また、異なる文化や価値観を持つ人々を理解し、共生していこうとする姿勢を持てるように学んでいく。さらに、国際社会が抱える様々な課題について学び、それらを自らの問題として捉え、解決のために身近なことから取り組もうとする姿勢や態度を養う。

《授業の到達目標》

1. 日本文化と国際理解の重要性について自らの考えを持ち説明できる。2. 研修先であるオーストラリアや台湾、国内等での体験や成果等の説明をもとに、それぞれの国や地域の歴史や文化等について説明できる。3. 生活に役立つ英会話の基礎について学び、活用できる。4. 国際社会の問題点や課題について指摘でき、自らの生き方や在り方について考え、説明できる。

《成績評価の方法》

- ・ 授業ノートの内容（各回ごとのレポート等を含む）70%
- ・ 授業に取り組む意欲や姿勢・態度30%
- ・ 総合評価60点以上を合格

《テキスト》

- ・ 必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

- ・ 大野誠「敦照のこころ」現代書林、1995
- ・ 竹田恒泰「日本の礼儀作法」2022
- ・ 大津和子・溝上泰「国際理解重要用語300の基礎知識」明治図書、2000

《授業時間外学習》

- ・ 各回ごとのテーマについて予習しておく。
- ・ 授業後、学修内容や自らの考えをノートにまとめる。
- ・ 予習や復習、課題等、29時間の時間外学習を必要とする。

《課題に対するフィードバック等》

毎回の授業時に、学びに向かう姿勢や課題への取組状況等を講評する。またノート等の提出物の内容を評価し、返却時にフィードバックする。

《授業計画》

| 回 | テーマ | 学習内容など |
|----|-------------------------|--|
| 1 | 国際化の中の日本人:大野博之 | 「日本文化と国際理解」の講義を通して、国際化の進展の中での日本人の在り方について学ぶ。[時間外学習] 学修内容と課題に対する自らの考えをまとめる。 |
| 2 | SDGsと海外の子どもたち: JICA職員 | SDGsの視点から捉えた、海外の子どもたちの生活や教育事情について学ぶ。[時間外学習] SDGsについて予習しておく。 |
| 3 | 西洋料理テーブルマナー: 担任他 | 学外で西洋料理テーブルマナーを体験し、基本的な礼儀や作法を身につける。[時間外学習] 事前にマナーについて予習をし、授業後のまとめも行う。 |
| 4 | 国際理解(1)オーストラリアやカナダ等の文化 | 諸外国(オーストラリアやカナダ等)における自然や様々な文化について学ぶ。[時間外学習] オーストラリアやカナダ等における文化について予習・復習をする。 |
| 5 | 国際理解(2)国内研修先の文化 | 国内での研修の実際について学ぶ。[時間外学習] 国内の研修先等における自然や文化について予習・復習をする。 |
| 6 | 海外で必要な英会話とマナー: 外部指導者 | 海外研修先で必要な基本的英会話について実践的に学ぶとともに生活習慣やマナーについて演習を行う。[時間外学習] 英会話について予習しておく。 |
| 7 | SDGsと国際社会における問題点: エイチ職員 | 世界の貧困や人権、ジェンダー、教育、地球環境問題等について学び、自身の生活や行動の在り方を考える。[時間外学習] 世界の諸課題について予習しておく。 |
| 8 | 進展する国際社会での生き方: 大野博之 | 国際社会における職業人の生き方について学び、本科目での学修を通して今後の生き方について考える。(発表と討議) [時間外学習] 学修内容についてノートにまとめる。 |
| 9 | ※研修方面ごと(1)研修の概要(目的と意義等) | 現地研修の意義や目的及び、研修先での日程等について学ぶ。また、パスポート申請のやビザ取得のための準備を行う。 |
| 10 | ※研修方面ごと(2)研修のための組織作り等 | 研修のための組織作りと班別行動目標、班別研修コースの設定等を行う。(1) |
| 11 | ※研修方面ごと(3)研修先のコース設定等 | 研修のための組織作りと班別行動目標、班別研修コースの設定等を行う。(2) |
| 12 | ※研修方面ごと(4)研修中のルールやマナー等 | 研修中の心構えやルール、マナー等について、事例を参考に話し合いを通して実践的に学ぶ。 |
| 13 | / | / |
| 14 | / | / |
| 15 | / | / |

《教養科目》

| | | | | | |
|---------------------------|-----------|-------------------------|------|----------|-------|
| 科目名 | 健康・スポーツ I | | | | |
| 担当者氏名 | 古木 竜太 | | | | |
| 授業方法 | 実技 | 単位・必選 | 1・必修 | 開講年次・開講期 | 1年・後期 |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | | ◎ 1-1 教養 ○ 2-2 知識・技能 | | | |

《授業の概要》

いつの時代も健康的な生き方は人類の理想でありながら、近年は身体を動かして活動することや他者と関わる機会が希薄になった時代ともいえる。そこで、本科目では球技などのチームスポーツを通じて、健康の維持・増進を図りながら、チームスポーツにおける協働について学ぶ。社会は協働できる職業人を求めていることを念頭に置き、様々なチームスポーツを通じてコミュニケーションスキルを身につける。

《授業の到達目標》

本科目では、主に球技などのチームスポーツを通じて、以下の目標の到達を目指す。①本授業で取り組むスポーツ各種の基本的なルールを理解して基本動作を修得し、ゲームを実践することができる。②誰とでも良好な人間関係を構築しながら、チームパフォーマンスが高まる方法を考え、実行することができる。③チームスポーツにおけるコミュニケーションについて説明できる。

《成績評価の方法》

本授業で取り組むスポーツ各種の成績およびチームへの貢献度を45%、授業後の学習記録を30%、最終レポートを25%とし、総合評価60点以上を合格とする。積極的なプレーや意欲などを加算要素、消極的なプレーは減点要素として評価する。

《授業計画》

| 回 | テーマ | 学習内容など |
|----|-----------------|---|
| 1 | 体育大会の各競技のルール確認 | 体育大会の競技種目について、ルールや注意事項について理解を深める〔時間外学習〕競技運営集を参考にして各競技のルールを予習すること（合計1時間） |
| 2 | 体育大会の出場競技の決定 | 体育大会委員が中心となり、出場する競技を決定する。〔時間外学習〕令和7年度の体育大会について予習・復習すること（合計1時間） |
| 3 | 体育大会の出場競技の練習 | 出場する競技の練習に取り組む。〔時間外学習〕出場する競技について予習・復習すること（合計1時間） |
| 4 | 体育大会 | 出場する競技について、練習してきた成果が発揮できるよう最後まであきらめずに取り組む。〔時間外学習〕出場する競技のルール確認および練習（合計1時間） |
| 5 | 協働ゲーム | チームワーク、コミュニケーションを深めるための運動ゲーム〔時間外学習〕自身のパフォーマンスを振り返り、コミュニケーションの深め方を考える（合計1時間） |
| 6 | ポートボール基礎練習 | 基本的なルールの理解、チームワークを深める練習、基本動作の練習〔時間外学習〕参考図書①②で基本的なルール（バスケット）を予習、基本動作の復習（合計1時間） |
| 7 | ポートボールリーグ戦（前半戦） | 各チーム総当たりのリーグ戦を行う〔時間外学習〕パフォーマンスレベルが向上する練習に取り組む、総合成績についてチームで話し合う（予習・復習1時間） |
| 8 | ポートボールリーグ戦（後半戦） | 前次に引き続きリーグ戦を行う〔時間外学習〕パフォーマンスレベルが向上する練習に取り組む、総合成績についてチームで話し合う（予習・復習1時間） |
| 9 | バレーボール基礎練習 | 基本的なルールの理解、チームワークを深める練習、基本動作の練習〔時間外学習〕参考図書①②で基本的なルールを予習、基本動作を復習すること（合計1時間） |
| 10 | バレーボールリーグ戦（前半戦） | 各チーム総当たりのリーグ戦〔時間外学習〕本次のゲーム結果を振り返り、パフォーマンスレベルが向上する練習に取り組む（予習・復習1時間） |
| 11 | バレーボールリーグ戦（後半戦） | 前次に引き続きリーグ戦を行う〔時間外学習〕パフォーマンスレベルが向上する練習に取り組む、総合成績についてチームで話し合う（予習・復習1時間） |
| 12 | ポッチャ（1） | 基本的なルール、得点集計、戦術の理解、ゲームの実践〔時間外学習〕ポッチャの基本的なルール、得点集計について予習・復習すること（合計1時間） |
| 13 | ポッチャ（2） | 前次に引き続きリーグ戦を行う〔時間外学習〕パフォーマンスレベルが向上する練習に取り組む、総合成績についてペアで話し合う（予習・復習1時間） |
| 14 | 卓球 基礎練習・リーグ戦（1） | 基本的なルールの理解、ダブルスのコンビネーションを深める練習、基本動作の練習〔時間外学習〕卓球（ダブルス）の基本的なルールを予習（合計1時間） |
| 15 | 卓球リーグ戦（2） | 前次に引き続きリーグ戦を行う〔時間外学習〕パフォーマンスレベルが向上する練習に取り組む、総合成績についてペアで話し合う（予習・復習1時間） |

《テキスト》

必要に応じて資料を配布する。

《参考図書》

- ①豊田 博（編）他『最新スポーツルール百科2000』. 2000年4月15日. 大修館書店
- ②平下政美『実践・生涯スポーツ』. 平成7年5月19日. 不昧堂出版
- ③中村敏雄（編）『スポーツ文化論シリーズ⑥スポーツコミュニケーション論』1995年7月15日. （有）創文企画

《授業時間外学習》

本授業で取り組むスポーツ各種に関する基本的なルール・基本動作について、予習・復習しておくこと。（本授業では15時間の時間外学修を必要とする）

《課題に対するフィードバック等》

最終レポートは授業終了後（第15回）に提示する。レポート内容および総合評価はポートフォリオでコメントを記して成績公表時にフィードバックする。

《教養科目》

| | | | | | |
|---------------------------|----------|---|------|----------|-------|
| 科目名 | 健康・スポーツⅡ | | | | |
| 担当者氏名 | 古木 竜太 | | | | |
| 授業方法 | 講義 | 単位・必選 | 1・選択 | 開講年次・開講期 | 1年・後期 |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | | ◎ 1-1 教養 ○ 3-3 汎用的技能 ○ 4-4 態度・志向性 | | | |

《授業の概要》

生涯にわたり健康的な生活を送るために、肥満予防、有酸素運動、基礎代謝について学び、グループディスカッションを通じて理解を深める。本科目の学修を踏まえ、自己の食生活、運動習慣を振り返り、より望ましい生活習慣への改善を図る。

《授業の到達目標》

社会に貢献できる専門的な職業人になるために、本科目を通じて健康の維持・増進を目的とした運動の必要性について説明できる。そして、運動処方に関する正しい知識を学び、日常的な運動を心がけ、健康的なライフスタイルについて説明できる。

《成績評価の方法》

授業後の学習記録の記述内容（25%）、筆記試験（定期試験期間中/75%）で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

毎回の授業においてプリントを配布する。また、ポータルサイトやMicrosoft社製TEAMSを用いて、必要に応じて資料を提示する。

《参考図書》

- ①工藤一彦、金子嘉穂『「体脂肪」を落として「筋肉質」になる』. 2000年7月31日. 女子栄養大学出版部
- ②安達正夫、吉村 正「知っておきたいスポーツ救急医学」. 1992年10月15日. (株) ベースボール・マガジン社
- ③伊丹康人監修「ボールエクササイズ」. 1999年3月31日. 金原出版株式会社

《授業時間外学習》

本授業で取り組む、「肥満」「ダイエット」「有酸素運動」「ストレッチ」「筋力トレーニング」などについて、図書またはインターネットなどを用いて予習・復習しておくこと。（本授業では29時間の時間外学修を必要とする）

《課題に対するフィードバック等》

毎回の授業後に記述する授業記録（学修ポートフォリオ）に対して、コメントを記載して返信する。

《授業計画》

| 回 | テーマ | 学習内容など |
|----|-------------------|---|
| 1 | 健康に関する現状と課題 | 健康の定義、平均寿命や健康寿命の変遷、健康の前提条件〔時間外学習〕都道府県別の平均寿命・健康寿命について予習・復習（合計3.7時間） |
| 2 | 体脂肪とダイエット | ダイエットの目的、体脂肪率の特定、BMI値の理解〔時間外学習〕自己の体脂肪率やBMI値の測定、ダイエットの方法について予習・復習（合計3.7時間） |
| 3 | 若年女性の低体重問題 | 若年女性の低体重が問題視されている現状や背景、健康のリスク〔時間外学習〕若年女性の低体重問題について予習・復習（合計3.7時間） |
| 4 | 肥満の原因と基礎代謝 | 肥満のメカニズム、摂食パターン、基礎代謝について〔時間外学習〕自己の摂食パターンや摂取カロリー、基礎代謝について予習・復習（合計3.7時間） |
| 5 | 筋力とトレーニングとストレッチング | 効果的なトレーニングの方法やストレッチングの留意点〔時間外学習〕サーキットトレーニングやPNFストレッチ、筋膜リリースについて予習・復習（合計3.7時間） |
| 6 | 筋力トレーニングとストレッチの実践 | 健康の維持・増進を目的としたストレッチング、筋力トレーニングの実践法、ウォーキング〔時間外学習〕第5次の講義内容について予習・復習（合計3.7時間） |
| 7 | 有酸素運動の実践法 | エアロビクスダンスの留意点〔時間外学習〕エアロビクスダンスの基本ステップについて予習・復習（合計3.7時間） |
| 8 | 救急処置 | RICE処置、テーピングの実践方法、腰痛のメカニズムと対処方法〔時間外学習〕アイシングやテーピング（手首と足首）の実践方法について予習・復習（合計3.7時間） |
| 9 | | |
| 10 | | |
| 11 | | |
| 12 | | |
| 13 | | |
| 14 | | |
| 15 | | |

《教養科目》

| | | | | | |
|---------------------------|--------|-------------------------|------|----------|-------|
| 科目名 | 英語 I B | | | | |
| 担当者氏名 | 塚原 昌子 | | | | |
| 授業方法 | 演習 | 単位・必選 | 1・必修 | 開講年次・開講期 | 1年・後期 |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | | ◎ 1-1 教養 ○ 2-2 知識・技能 | | | |

《授業の概要》

日常会話と専門的英語を学修します。場面を設定しそこでの対話を考えます。エッセイに関しては作成後個別に教員が対面で指導を行います。エッセイについてプレゼンテーションを行います。

《テキスト》

Make It Simple
 Kazuko Morita / Junko Takahashi / Hiroko Kitamoto
 2021 SANSHUSYA

《参考図書》

その都度指示します。

《授業の到達目標》

- (1) 英語を学ぶことと使うことを楽しむことができる。
- (2) 英検の準二級合格に備えることができる。
- (3) 日常単語とフレーズを使う事ができる。
- (4) 基本文型（前置詞や複数形や関係代名詞を含む）を使う事ができる。
- (5) 英語が使われる場所や地域の文化的側面を語る事ができる。

《授業時間外学習》

- (1) 学生は毎日最低15分英語を勉強することが望ましい。
- (2) 学生はテキストの単語とフレーズを暗記する。
- (3) 日記を書くこともいい方法である。
- (4) 英検を受験して熟達度を測る。
- (5) 一時間程度の宿題が出される。

《成績評価の方法》

宿題 20%
 授業中の課題 20%
 小テスト20%
 定期試験（筆記）40%
 総合評価し、60点以上を合格とする

《課題に対するフィードバック等》

課題返却時に口頭でフィードバックし、提出物にはコメントを記載します。

《授業計画》

| 回 | テーマ | 学習内容など |
|----|----------------------------|---|
| 1 | Lesson 7 健康(1)-疑問詞の表現① | (授業内容) Wh-疑問文① (時間外学習) Lesson 7 の単語を調べ、p. 42～44を解いてくる |
| 2 | Lesson 7 健康(2)-練習と会話 | (授業内容) Wh-疑問文① (時間外学習) 前回の要点をノートにまとめ、Exercisesを解いてくる |
| 3 | Lesson 8 ショッピング(1)-疑問詞の表現② | (授業内容) Wh-疑問文② (時間外学習) Lesson 8 の単語を調べ、Let's tryの訳を書き、p. 49～50を解く |
| 4 | Lesson 8 ショッピング(2)-練習と会話 | (授業内容) Wh-疑問文② (時間外学習) 前回の要点をノートにまとめ、Exercisesを解いてくる |
| 5 | Lesson 9 休日(1)-時を表す表現 | (授業内容) 時の表現 (時間外学習) Lesson 9の単語を調べ、Let's tryの訳を書き、p. 55～56を解く |
| 6 | Lesson 9 休日(2)-練習と会話 | (授業内容) 時の表現 (時間外学習) 前回の要点をノートにまとめ、Exercisesを解いてくる |
| 7 | Lesson 10 大学生活(1)-助動詞の使い方 | (授業内容) 助動詞 (時間外学習) Lesson 10の単語を調べ、Let's tryの訳を書き、p. 61～62を解く |
| 8 | Lesson 10 大学生活(2)-練習と会話 | (授業内容) 助動詞 (時間外学習) 前回の要点をノートにまとめ、Exercisesを解いてくる |
| 9 | Lesson 7～10のまとめと小テスト | (授業内容) Lesson 7～10の復習、のち小テスト (時間外学習) Lesson 7～10の要点をノートにまとめ、小テストに備える |
| 10 | Lesson 11 世界の国々(1)-地図から学ぶ | (授業内容) 比較級と最上級 (時間外学習) Lesson 11 の単語を調べ、p. 66～68を解いてくる |
| 11 | Lesson 11 世界の国々(2)-練習と会話 | (授業内容) 比較級と最上級 (時間外学習) 前回の要点をノートにまとめ、Exercisesを解いてくる |
| 12 | Lesson 12 海外旅行(1)-練習と会話 | (授業内容) 空港での会話 (時間外学習) Lesson 12 の単語を調べ、p. 72～75を解き、Let's writeを書く |
| 13 | Lesson 13 海外旅行(2)-読解と練習 | (授業内容) 旅行の思い出を振り返る (時間外学習) Lesson 13 の単語を調べ、p. 78～81を解き、Let's writeを書く |
| 14 | Lesson 11～13 のまとめと小テスト | (授業内容) Lesson 11～13の復習、のち小テスト (時間外学習) Lesson 11～13の要点をノートにまとめ、小テストに備える |
| 15 | Lesson 7～13のまとめ復習、練習問題 | (授業内容) Lesson 7～13の復習、と定期試験対策 (時間外学習) Lesson 7～13の要点をノートにまとめ、質疑応答に備える |

《教養科目》

| | | | | | |
|---------------------------|------------|---|------|----------|-------|
| 科目名 | コミュニケーション論 | | | | |
| 担当者氏名 | 吉野 寿一 | | | | |
| 授業方法 | 講義 | 単位・必選 | 2・選択 | 開講年次・開講期 | 1年・後期 |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | | <input type="radio"/> 1-1 教養 <input checked="" type="radio"/> 2-2 知識・技能 <input type="radio"/> 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | |

《授業の概要》

コミュニケーションとは何か。コミュニケーションに関連する、ソーシャルスキル、アサーション、ファシリテーション等の概略を掴みながら、社会人として一歩踏み出すために知識や技能を身に付けていく。さらには、ダイバーシティ、ヴァーチャル化が進行する時代におけるコミュニケーションのあり方をグループ内で対話し、2つ以上のグループ間で考察し、将来に向けてコミュニケーション能力を高めていく。

《授業の到達目標》

○コミュニケーションについて理解するとともに、進んで関係性をより良くできる。○自分自身のコミュニケーションスタイルを知るとともに今後の人間関係に生かすことができる。○コミュニケーションに係る様々な課題を、授業を通して得た知識を総動員して解決できる。○人間関係において生じる様々な問題を、アサーティブに対応できる知識や技能を身に付けることができる。

《成績評価の方法》

授業における課題提出・発表におけるパフォーマンス（40%）定期試験（60%）で評価し、総合評価60点を合格とする。

《テキスト》

教科書は使用せず、その都度コピーを配布する。

《参考図書》

辻 大介、是永 論、関谷 直也 共著『コミュニケーション論をつかむ』有斐閣 2014
 平木典子著『アサーション入門』（講談社現代新書）2014
 渡辺 潤監修『新版 コミュニケーション・スタディーズ』（世界思想社）2021

《授業時間外学習》

配布資料（コピー）の復習をする一方、日常生活の中で生じる様々なコミュニケーション課題について発表しあうので、その準備をすること。
 本授業では60時間の時間外学習が必要。質問等は講義終了後に受け付ける。

《課題に対するフィードバック等》

授業の中で提出を求めた課題については、後日授業中にコメントを付けてフィードバックをする。

《授業計画》

| 回 | テーマ | 学習内容など |
|----|------------------------|--|
| 1 | コミュニケーション（以下CCと記載）とは何か | CCの概略について触れるとともに講義の進め方や学習方法を説明する。時間外学習（以下時学と記載）：CCについて知っていることをまとめる |
| 2 | CCの基礎1 言葉によるCC | ことばが通じる、わかるとはどういう状況のことかを考え、発話の理解や背景的知識の理解を通して、ことばによるCCの基礎について学ぶ。時学：言葉によるccをまとめる。 |
| 3 | CCの基礎2 非言語によるCC | ことば以前のCCや動物のそれなどを通して、非言語によるCCの基礎の基礎を学ぶ。時学：非言語によるccをまとめる。 |
| 4 | CCの基礎3 会話分析とCC | 会話分析により談話や文章を理解するメカニズムを理解するとともに、行為連鎖によって生じる会話の勢いについて学ぶ。時学：行為連鎖によって生じる課題をまとめる。 |
| 5 | 人間関係とCC1 CCスタイル | より良い人間関係構築に向け、CCスタイル・エゴグラムを通じてそれを知り、相手との関わりを知る。時学：自分のccスタイルをまとめる。 |
| 6 | 人間関係とCC2 アサーション | 関係性を損なうことなく、自分の考えを伝えるための「アサーション」の考え方を理解するとともに、演習を通じ理解を深める。時学：アサーションについてまとめる。 |
| 7 | 人間関係とCC3 CC的行為 | J.ハーバーマスの社会行為に視点を置き、道具的行為、戦略的行為等の意味を理解し、よりよい人間関係を構築する術を考える。時学：社会行為とccについてまとめる |
| 8 | 人間関係とCC4 ソーシャルスタイルとCC | ソーシャルスキルとマニュアルとの関連を考え、CCにおける伝達性、親和性等について考える。グループ内ディスカッション 時学：CCにおける課題をまとめる。 |
| 9 | 社会を取り巻くCC1 メディアとCC | メディアの発達とともにCCにおける伝達方法も変化してきた。様々なメディアに焦点をあてCCについて考える。時学：メディアとccについてまとめる。 |
| 10 | 社会を取り巻くCC2 CCの不易と流行 | IT技術の進歩により、CCの様相も変化している。「不易と流行」視点に立ち、現状や将来のCC状況を考える。時学：これからのccについて考えをまとめる。 |
| 11 | 社会を取り巻くCC3 全方位型CC | ジェネレーションギャップに象徴される世代間の分裂を避けるためにはどうしたら良いのだろうか。時学：全方位型ccについてについて考えをまとめる。 |
| 12 | 社会を取り巻くCC4 異文化CC | ますます国際化する中で、自国文化と世界精神について理解し、異文化CCを発揮できる国際人としての資質について考える。時学：異文化ccの課題について考える。 |
| 13 | いかに伝えるか1 学習を振り返り発表準備 | 与えられた課題について自分なりの考え、より良く、より正しく、説得力をもって伝える術を使って発表する。時学：伝え方の工夫を生かし発表の準備をする。 |
| 14 | いかに伝えるか2 反省を生かした発表の工夫 | 与えられた課題について自分なりの考え、より良く、より正しく、説得力をもって伝える術を使って発表する。時学：伝え方の工夫について考えをまとめる。 |
| 15 | 自分のコミュニケーションについて考える | 自己発見と自らの成長ぶりを振り返り、本講義で学んだことにより得た成果や新しい経験を発表し合う。時学：コミュニケーションのあり方について考えをまとめる。 |

《教養科目》

| | | | | | |
|---------------------------|--------|--|------|----------|-------|
| 科目名 | 健康と栄養 | | | | |
| 担当者氏名 | 長谷川 順子 | | | | |
| 授業方法 | 講義 | 単位・必選 | 1・選択 | 開講年次・開講期 | 1年・後期 |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | | <input type="radio"/> 1-1 教養 <input checked="" type="radio"/> 2-2 知識・技能 | | | |

《授業の概要》

健康と栄養に関わる内容について様々な知識を修得する。

《テキスト》

適宜、プリント等を配布する。

《参考図書》

必要に応じて授業の中で紹介する。

《授業の到達目標》

健康で活力のある生活を送るためには、健康と栄養とがいかに密接であるかを述べることができる。

《授業時間外学習》

本授業は29時間の時間外学習が必要です。
 授業時に配布されたプリントを用いて復習し、講義内容とプリント記載内容を読み返して、授業に関連する学習を自発的に行うこと。
 課題はしっかり取り組み、期日までに提出すること。

《成績評価の方法》

全体で100%とし、「定期試験(筆記)40%」「リアクションペーパー40%」「課題20%」で総合的に評価し60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

リアクションペーパーは、次回の授業時にコメントを付して返却する。提出を求めた個人課題は、内容を確認してコメントを付して返却するか必要に応じて個別に指導を行う。

《授業計画》

| 回 | テーマ | 学習内容など |
|----|-----------------------|--|
| 1 | 人体の構造と仕組み | 人の体は何から出来ているのか、その構造と仕組みを知る。 【時間外学習】授業内容の復習(4時間) |
| 2 | 体内における三大栄養素の役割 | 人にとって理想的なたんぱく質は何か、スタミナがあるということはどういうことなのか、体脂肪になりにくい油のしくみを知る。【時間外学習】授業内容の復習(4時間) |
| 3 | ビタミン、ミネラルの役割 | ビタミンのパワーとミネラルの働きを知る。 【時間外学習】授業内容の復習(4時間) |
| 4 | 活性酸素と健康と病気 | 活性酸素の発生機序と対策を考える。 【時間外学習】授業内容の復習(3時間) |
| 5 | 生体リズムと食生活 | 生体リズムを整え、体調管理の方法を考える。 【時間外学習】授業内容の復習(4時間) |
| 6 | 食生活、食行動の課題とバランスのとれた食事 | 日々の食生活から自身の問題点をあげ、改善策を考える。 【時間外学習】授業内容の復習(4時間) |
| 7 | 食とアレルギー | 食物アレルギー発症のメカニズムと食について知る。 【時間外学習】授業内容の復習(3時間) |
| 8 | スポーツ活動と栄養 | スポーツ活動を行う際の食事の質・量・タイミング、水分補給法とサプリメントについて考える。【時間外学習】授業内容の復習(3時間) |
| 9 | / | / |
| 10 | / | / |
| 11 | / | / |
| 12 | / | / |
| 13 | / | / |
| 14 | / | / |
| 15 | / | / |

《教養科目》

| | | | | | |
|---------------------------|-------|--------------------------|------|----------|-------|
| 科目名 | 地球と環境 | | | | |
| 担当者氏名 | 落合 啓志 | | | | |
| 授業方法 | 講義 | 単位・必選 | 1・選択 | 開講年次・開講期 | 1年・後期 |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | | ◎ 1-1 教養 ○ 4-4 態度・志向性 | | | |

《授業の概要》

身の周りや、日本、世界で起こっている環境問題と、自分たちとの関係について、具体的な事例をもとにして、グループ討議や発表を通して学ぶ。なお、グループ討議は3～4人程度で毎時間実施し、毎回グループのメンバーは変わる。授業の終末で提示する課題はポートフォリオにて提出する。

《授業の到達目標》

主な環境問題の現状について関心を持ち、課題や要因等について説明できる。

《成績評価の方法》

筆記試験（20%）、毎回の授業中に作成するワークシート及び授業後に提出するポートフォリオ（80%）で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

なし

《参考図書》

増井光子監修 パンダどうぶつの赤ちゃん 金の星社 2023
 深光富士男著 アドベンチャーワールドパンダをふやせ!このプロジェクトを追え! 佼成出版社 2015
 栗原彬編 岩波新書 新赤版 証言水俣病 岩波書店 2000
 後藤孝典著 沈黙と爆発 ドキュメント「水俣病事件」 集英社 1995

《授業時間外学習》

復習として、授業で配布した資料を活用してポートフォリオを作成する他、授業に関連する学習を自発的に行うこと。本授業は29時間の授業時間外学習が必要です。したがって、各回において、予習復習合わせて概ね3.7時間の自己学習が必要である。（授業計画には☆で示す）

《課題に対するフィードバック等》

提出されたポートフォリオは内容を確認し、次の授業の前日までにコメントを付してフィードバックします。

《授業計画》

| 回 | テーマ | 学習内容など |
|----|---------------------|---|
| 1 | アライグマから考える環境問題 | アライグマは動物園だけにいるのでしょうか。アライグマ問題から環境についていろいろなことが見えてきます。☆授業終末で示した課題をポートフォリオで提出する。 |
| 2 | パンダから考える環境問題 | パンダは人気者ですが、パンダから環境についていろいろなことが見えてきます。☆授業終末で示した課題をポートフォリオで提出する。 |
| 3 | レジ袋から考える環境問題 | たかがレジ袋だが、されどレジ袋。レジ袋問題から環境についていろいろなことが見えてきます。☆授業終末で示した課題をポートフォリオで提出する。 |
| 4 | 地球温暖化から考える環境問題 | いま話題の地球温暖化問題をいろいろな角度から考えてみましょう。いままで気づかなかったことが見えてきます。☆授業終末で示した課題をポートフォリオで提出する。 |
| 5 | 太陽光発電から考える環境問題 | エコといわれている太陽光発電や自然エネルギーから環境についていろいろなことが見えてきます。☆授業終末で示した課題をポートフォリオで提出する。 |
| 6 | 水から考える環境問題 | 蛇口をひねると当たり前のように出てくる水ですが、水から環境についていろいろなことが見えてきます。☆授業終末で示した課題をポートフォリオで提出する。 |
| 7 | 環境問題のこれまでとこれから | 過去の環境問題とこれからの環境問題の違いは何でしょうか。また、SDGs実現に向けて必要なことを考えます。☆授業終末で示した課題をポートフォリオで提出する。 |
| 8 | 埼玉県の問題環境問題&授業終了後、試験 | 埼玉県ならではの環境問題について考えます。授業終了後、試験を行います。☆授業終末で示した課題をポートフォリオで提出する。 |
| 9 | / | / |
| 10 | / | / |
| 11 | / | / |
| 12 | / | / |
| 13 | / | / |
| 14 | / | / |
| 15 | / | / |

《教養科目》

| | | | | | |
|---------------------------|-------------------------|-------|------|----------|-------|
| 科目名 | 中国語 | | | | |
| 担当者氏名 | 蔡 秋斬 | | | | |
| 授業方法 | 演習 | 単位・必選 | 2・選択 | 開講年次・開講期 | 1年・後期 |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ◎ 1-1 教養 ○ 2-2 知識・技能 | | | | |

《授業の概要》

近年は経済交流や文化交流を通して、中国が身近な国になってきています。そこで、本講義では発音を学びながら挨拶言葉、家族呼称、数字、年月日を学びます。続けて、テキストの“課文”によって、姓名、判断、質問、所有、存在、期日・曜日、時間帯・時刻、貨幣、完了などの表現を学びます。毎回、内容を確認してから、ペアでロールプレイをしたり、教師と会話をしながら楽しく授業を進めていきます。

《授業の到達目標》

受講生が中国語の声調を完璧にマスターできるよう、発音の訓練を徹底的に学びます。そのため、中国語による挨拶、自己紹介、年月日、曜日、時間、買い物などの日常会話ができることを目標とします。

《成績評価の方法》

定期試験における筆記試験と面接試験[50%]、宿題[20%]、授業における会話力の向上度[30%]によって評価し、総合評価60点以上を合格とします。

《授業計画》

| 回 | テーマ | 学習内容など |
|----|--------------------------|---|
| 1 | 発音① 声調 単母音、子音 | 声調（四声）、単母音、子音（1） 漢詩①（春暁）（時間外学習）教科書と先生の録音を聞いて復習する。 |
| 2 | 発音②複合母音、子音 第一課 niihao | 複合母音、子音（2）、声調記号の付け方 人称代名詞、是、疑問文（時間外学習）教科書と先生の録音を聞いて復習する。 |
| 3 | 発音③鼻母音、子音 第二課 お名前は | 鼻母音、子音（3）、数字、漢詩②（山村） 名前の中国語発音（時間外学習）教科書と先生の録音を聞いて復習する。 |
| 4 | 発音④声調変化 総合練習 | 声調変化、挨拶言葉 総合練習（時間外学習）教科書と先生の録音を聞いて復習する。 |
| 5 | 第三課 なにをたべますか | レストランでの尋ね方言い方、 自己紹介（時間外学習）教科書と先生の録音を聞いて復習する。 |
| 6 | 第四課 中国語難しいですか | 感想を言う、主語+動詞+目的語 （時間外学習）教科書と先生の録音を聞いて復習する。 |
| 7 | 第三、四課 総合練習 | 総合練習、 （時間外学習）教科書と先生の録音を聞いて復習する。 |
| 8 | 第五課 お誕生日は | 年月日、数、時刻を言い 中国語の歌を歌う（時間外学習）教科書と先生の録音を聞いて復習する。 |
| 9 | 第六課 好きなことは何ですか | 興味について できる、出来ないを言う（時間外学習）教科書と先生の録音を聞いて復習する。 |
| 10 | 第五、六課 総合練習 自己紹介 | 中国語の歌の歌詞を翻訳練習（時間外学習）教科書と先生の録音を聞いて復習する。 |
| 11 | 第七課 明日授業があるか 総合練習 | 約束を交わす （時間外学習）教科書と先生の録音を聞いて復習する。 |
| 12 | 第八課 映画館で待てる | 所在の表現 （時間外学習）教科書と先生の録音を聞いて復習する。 |
| 13 | 第九、十課 総合練習 自己紹介 | 買いたいものを伝える、道案内をする、電話でのやり取り 簡単な自己紹介文を書く。（時間外学習）教科書と先生の録音を聞いて復習する。 |
| 14 | 第十一、十二課 総合練習 自己紹介 | 簡単にしたことや計画を述べる 計画について言う・尋ねる（時間外学習）教科書と先生の録音を聞いて復習する。 |
| 15 | 総合練習 質問応答 | 総合練習。（時間外学習）教科書と先生の録音を聞いて復習する。 自己紹介文を言う |

《テキスト》

晴れ晴れ中国語 監修者王学群、著者：綾部武彦、小路口ゆみ、劉心苗 朝日出版社

《参考図書》

必要に応じて紹介します。

《授業時間外学習》

発音を学んだ後、毎回授業の最初に前課の本文をペアで復唱するので、必ず復習しておくこと。（本授業は2単位科目のため、各回の内容に対し4時間の復習が必要です。）

《課題に対するフィードバック等》

1. 課題は授業の中で理解しやすい説明をする。2. 日常会話練習に重点を置いた授業にします。3. 学生には毎回の授業に出席し、宿題を自分ですることをお願いする。

《教養科目》

| | | | | | |
|---------------------------|---|-------|------|----------|-------|
| 科目名 | 色彩デザイン論 | | | | |
| 担当者氏名 | 大野 琴絵 | | | | |
| 授業方法 | 演習 | 単位・必選 | 2・選択 | 開講年次・開講期 | 1年・後期 |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ○ 2-2 知識・技能 ○ 3-3 汎用的技能 ◎ 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力 | | | | |

《授業の概要》

私たちは知覚情報を五感(味覚・嗅覚・触覚・視覚・聴覚)で判断しているが、その中でも視覚情報は87%を占めている。この授業では視覚情報の多くを占めている色彩について理解し、現場において、ターゲットに対するより効果的なアプローチの仕方を学び、ICTを活用し、PCスキルの基礎を身につける。

《授業の到達目標》

色彩の基礎を理解して問題を発見・解決・提案することができる。
 色彩効果を利用して自分の思いを表現することができる。
 目的に応じた配色や着色ができる。

《成績評価の方法》

全体で100%とし、授業で制作した作品50%、課題レポート30%、プレゼンテーション20%を基準とし学期末に総合的に評価する。総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

授業内で適宜プリント・資料等を配布する。

《参考図書》

- ・香川勇・長谷川望編著「色彩語事典」黎明書房出版 1998
- ・吉岡幸雄「日本の色辞典」紫紅社出版 2000年
- ・大井義雄 川崎秀昭著「色彩カラーコーディネーター入門」日本色研事業 2009
- ・山脇恵子著「図解雑学 よくわかる色彩心理」ナツメ社 2010

《授業時間外学習》

課題ごとに学習内容を伝える。必要に応じて課題に各自取り組むこと。毎回の授業について、予習・復習(概ね1時間半)の自己学習が望ましい。(本授業では60時間の時間外学修が必要です。)

《課題に対するフィードバック等》

授業の中で指示された材料・用具を持参すること。提出された作品は講評を通してフィードバックする他に、全15回の授業終了後に採点を行い、コメントを付け返却する。

《授業計画》

| 回 | テーマ | 学習内容など |
|----|------------------------|--|
| 1 | 色彩の基礎知識 | 色彩の基礎(色の3原色や色の3要素)を学ぶ。準備学習：予め自分の感じる「美味しさ」とは何かをまとめておくこと。 |
| 2 | 色彩構成(配色構成①) 図形 | 円形や三角形、四角形、ひし形などの図形を基に美的な構成を行う。配色と色の調和について色鉛筆を用いて、実技で確認する。準備学習：予め色鉛筆の種類を調べること。 |
| 3 | 色彩構成(発表) | 配色構成①について作品のプレゼン・講評を行う。準備学習：予め発表の練習をしておくこと。 |
| 4 | 色彩構成(配色構成②) 色から受けるイメージ | 色から受けるイメージについて考え、色彩構成を行う。配色と色の調和について色鉛筆を用いて、実技で確認する。準備学習：予め国旗の種類を調べること。 |
| 5 | 色彩構成(発表) | 配色構成②について作品のプレゼン・講評を行う。準備学習：予め発表の練習をしておくこと。 |
| 6 | 色彩構成(コラージュ) | 配色と色の調和についてコラージュ作品を制作する。準備学習：予めコラージュに必要な雑誌を集めて、構成案を考えておくこと。 |
| 7 | 色彩構成(発表) | 配色と色の調和についてコラージュ作品のプレゼン・講評を行う。準備学習：予め発表の練習をしておくこと。 |
| 8 | 色彩構成(レポート) | 色彩構成で学んだ知識を踏まえてレポート課題に取り組む。準備学習：予め制作内容・発表内容をまとめ、記述する内容を考えておくこと。 |
| 9 | 色彩の感情(企画制作) | 視覚で五感を刺激するポスターを企画・制作する。準備学習：予め企画書の復習を行い、制作案を考えておくこと。 |
| 10 | 色彩の感情(発表) | 視覚で五感を刺激するポスターのプレゼン・講評を行う。準備学習：予め発表の練習をしておくこと。 |
| 11 | 色彩の感情(レポート) | 色彩の感情で学んだ知識を踏まえてレポート課題に取り組む。準備学習：予め制作内容・発表内容をまとめ、記述する内容を考えておくこと。 |
| 12 | 彩り・季節を考えた空間づくり(企画) | グループで協働し、彩り・季節を考えた空間づくりの企画する。(予習1時間、復習1時間) 準備学習：予めを調べておくこと。 |
| 13 | 彩り・季節を考えた空間づくり(制作) | グループで協働し、彩り・季節を考えた空間づくりの制作する。準備学習：予め企画書の復習を行い、制作案を考えておくこと。 |
| 14 | 彩り・季節を考えた空間づくり(発表) | グループで協働し、彩り・季節を考えた空間づくりについて作品のプレゼン・講評を行う。準備学習：予め発表の練習をしておくこと。 |
| 15 | 彩り・季節を考えた空間づくり(レポート) | 彩り・季節を考えた空間づくりで学んだ知識を踏まえてレポート課題に取り組む。準備学習：予め制作内容・発表内容をまとめ、記述する内容を考えておくこと。 |